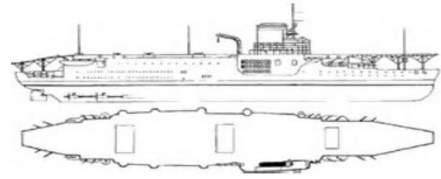


潜水艦、掃海艇の入港認めるな 県に申し入れ



わしの恵子、下奥奈歩両県議は6月5日、三河港蒲郡地区に入港予定の海上自衛隊の潜水艦と掃海艇に関する申し入れを県に対して行いました。

入港を予定しているのは、潜水艦が6月10～12日、掃海艇2隻が7月8～9日です。

これに合わせて県と蒲郡市の歓迎セレモニー、一般公開が予定されるとともに潜水艦については特別公開（館内見学）、掃海艇については体験航海も予定されています。



わしの県議は「自治体が国と一緒にあって危険な動きを行うことには反対だ」、下奥県議は潜水艦特別公開の申込情報が募集案内にも利用されることについて「個人情報を利用して自衛隊のリクルートにつながる」と批判しました。県の担当者は、「港湾法に基づいて平等に入港や港湾施設の利用を許可している」と答えるにとどまりました。

自然環境守ることがアサリ漁の再生に 水産試験場を訪問



下奥奈歩県議は5月17日、県の水産試験場を訪問して向井良吉副場長らと懇談しました。

苦潮によって大量のアサリが死滅しており、アサリ不漁の最大の要因は苦塩とのことでした。そして苦塩の最大の要因になっているのが浚渫工事などによって海底を深く掘ること。アサリは海の環境循環にとって重要な役割を果たしており、埋め立てが環境を変える要因のひとつになっていること、環境循環が断たれたこと、藻場が減ってきたこととともに、アサリや三河湾を守るための取り組みなどが紹介されました。



下奥県議は、「設楽ダム計画が進んでいるが、ダムができてしまえば環境悪化になってアサリが居なくなってしまう。今回の話を生かしていきたい」と感想を語りました。

この懇談にはすやま初美参院愛知選挙区候補、日恵野佳代蒲郡市議、河辺正男田原市議や島津幸弘衆院議員秘書、武田良介参院議員秘書が同席しました。